

## 公共事業の事後評価について

### 1 事後評価の目的

完了した事業について、その効果、環境影響等の実績の確認を行い、事業主体が必要に応じて適切な改善措置を検討することや評価結果を同種の新規事業の調査や計画に反映させるため、留意点等の対応方針を作成する。

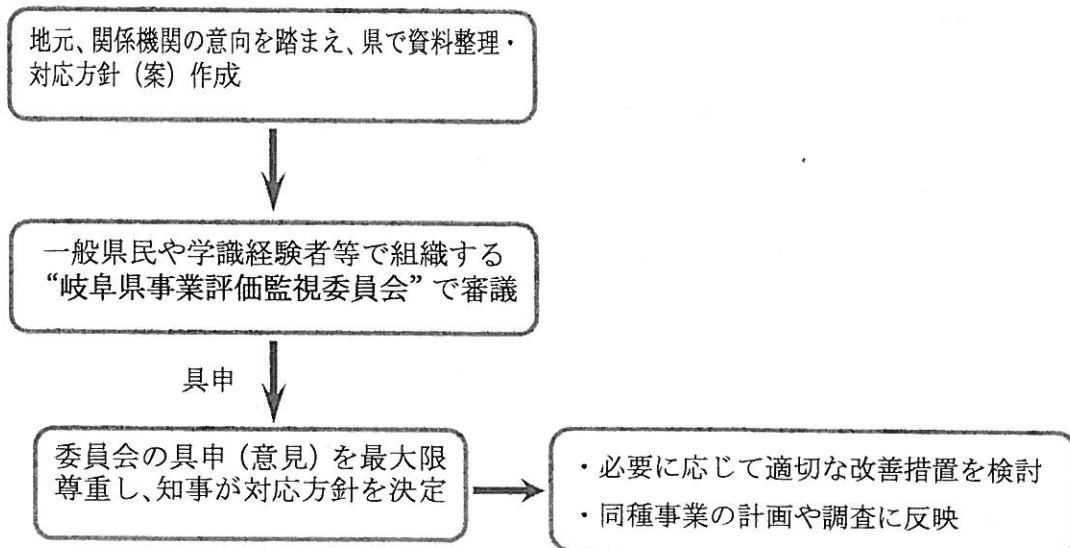
この方針について、学識経験者等第三者で構成される「岐阜県事業評価監視委員会」の意見を聴き、その意見を尊重し事業主体が対応方針を決定し公表する。

### 2 対象事業

事業完了後（暫定供用後を含む）1年間を経過した大規模な事業（但し、事業効果が現れるまで期間を要する事業については5年経過後）

自然災害等の事象の発生や環境への影響、社会経済情勢の変化等により、事後評価を実施することが必要となった事業

### 3 事務事業の流れ



平成 22 年度第 5 回岐阜県事業評価監視委員会

**【農地整備課所管 事後評価審議資料】**

○県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（乙姫地区）

- ・事後評価実施箇所一覧表
- ・事後評価箇所表
- ・説明資料（パワーポイント）

平成22年度 事後評価実施箇所一覧表

番号	担当課名	県事業		事業採択年度	完了年度	全体事業費 (百万円)		事業名	路線名(地区名)	施工場所
		補助	県単			上段:当初	下段:最終			
1	農地整備課	○		S63	H20	1,802	4,744	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業	乙姫地区	中津川市

## 別紙平成22年度事後評価箇所表

番 号		事 業 名 (路線名等)	県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 むとつめ 乙 姫 地 区	
実施箇所	中津川市（旧坂下町）	全体事業費	(当初 1,802 百万円) 4, 7 4 4 百万円	
採択年度	昭和63年度	完了年度	平成20年度	
事業目的	<p>中津川市坂下、川上及び山口の一部を受益とする当地区においては、国道256号が国道19号に繋がる唯一の道路となるが、通過する坂下市街地において大変混雑している状況で、農業輸送上大きな支障となっていた。</p> <p>このため、本事業により、生産団地と農業施設等を効率的に結びつける農道を整備し、農業輸送の合理化を推進し、併せて地域生活環境の改善を図るものである。</p>			
事業概要	<p>農道延長 L = 3, 3 9 5 m 全幅員 7.0m [車道幅員 2.75m × 2 車線 = 5.5m]          上記内訳 道路工 L = 2, 9 9 3 m          橋梁工 L = 4 0 2 m ( 3 橋 )</p>			
概要図				



## 評価結果

### ①住民参加・協働による効果

事業着手前に設立された「乙姫農免農道整備推進協議会」が中心となって、関係集落の意見を集約し路線検討を行い事業に反映させるとともに、用地買収及び物件補償についても、地域の全面的な協力により、円滑な事業推進が図られた。

また、発生残土についても、地域住民の協力のもと農道付近での処分が可能となり事業費の縮減に寄与した。

更に、農道の維持管理面においては、地元有志で組織する【乙姫街道桜守会】が主体となり、草刈りや農道沿線に垂れ桜等の植栽を行うなど、地域が愛着を持ってかわっている。

### ②事業効果

農産物の輸送について、距離及び時間の短縮が図られ、併せて車両が大型化し効率化が進んでいる。また、地域住民の通勤、買い物、通院等の生活道路としても活用されているほか、事故や災害時の国道19号及び256号の迂回路線としての機能も発揮している。

本農道の建設に伴い、平成17年度にJAひがしみのが坂下堆肥センター（堆肥化施設）を農道沿いに建設し、生産された堆肥は本農道を通り地元のみならず隣県のJAで販売されているとともに、管内農家等にも直接販売している状況となっており、循環型農業の振興に寄与している。

#### 【道路の利用状況】

計画交通量998台/日に対し、実測交通量1,814台/日〈H22.9.21調査〉と利用率は高い状況となっている。

### ③環境面への配慮

現場で発生する根株をチップ化し、法面保護の吹付の基盤材として活用した。

盛土法面に現地発生の表土を利用して築立し、在来種による植生を図った。

### ④事業を巡る社会情勢の変化

受益地がある中津川市のぎふクリーン農業の登録面積は平成15年から増え始めている（平成15年16.4ha→平成21年141.9ha）。

地域の特産物として、「飛騨美濃すぐれもの」の栗きんとんの原料となる特選栗の栽培が盛んである（受益地内栗団地14.4ha）。

道の駅きりら坂下及びふれあい市場の農産物直売所の売上高が年々上昇している（平成15年6百万円→平成21年10百万円）。

椀の湖農業小学校を始め、椀の湖周辺での、そばの花まつり、JRさわやかウォ

ーキング等、都市農村交流が活発となっている（平成 21 年度 入込客 165 千人〔道の駅観光動態調査より〕）。

#### ⑤利用者・地域住民等への効果

アンケート調査結果（対象：受益地内の農家及び非農家 715 戸、回収率 61%）、農業への効果については、「輸送がスムーズになった」など約 7 割が「便利になった」と回答。生活面への効果としては、「通勤に便利になった」「買い物に便利になりありがたい」など約 8 割が「便利になった」と回答。

#### ⑥対応方針

（今後の事業評価の必要性）

集落、農地、農業施設と国道 19 号が一体的に結ばれたことにより、農作業及び農産物輸送において利便性が向上しておりまた中津川市及び地域住民により適正に施設が管理されている状況である。

また、アンケート結果においても、住民満足度は高く、今後の事業評価は必要としない。

（改善措置の必要性）

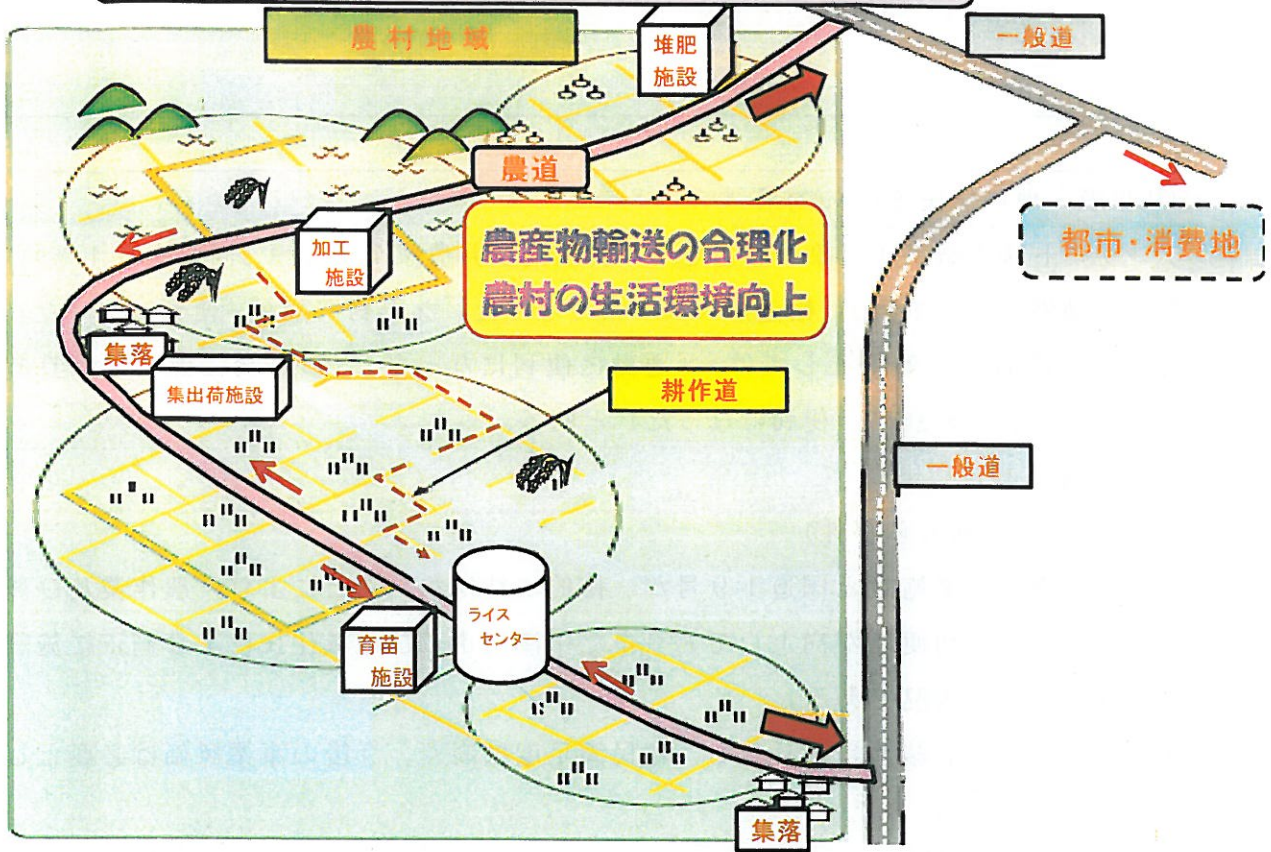
特になし

（新規事業への適用すべき留意点）

事業実施にあたり、コスト縮減を考慮しつつ施設利用者の利便性・安全性を更に向上できるよう交流施設への案内標示や、勾配変化箇所・カーブ手前での警戒標識・視線誘導標等の安全施設の設置について十分検討を行い、安全で円滑に通行できるよう留意する。



# 農道整備事業のイメージ図



## 県営農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 乙姫地区の事後評価

岐阜県 農政部 農地整備課





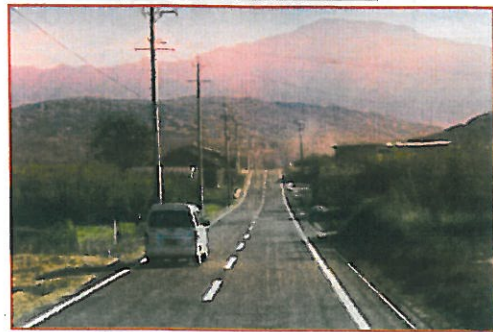


# 工事完成後の状況

着手前



完成後



利用状況



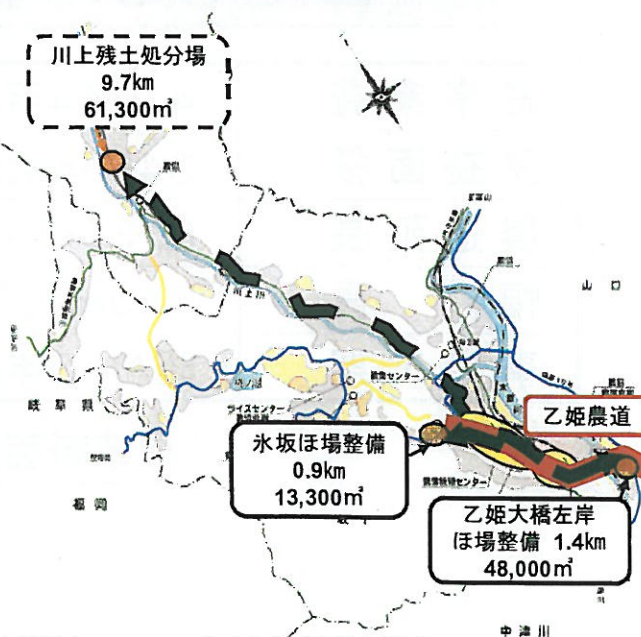
5

## コスト縮減への取組

近接地への残土処分  
運土距離 9.7km  
→ 0.9~1.4km

$$61,300\text{m}^3 \times \Delta 1,718\text{円}/\text{m}^3 \\ \cong \Delta 105,300\text{千円}$$

残土処分地状況  
(水坂ほ場整備)



その他

- ・道路縦断線形の見直 (7% → 10%)  $\Delta 101,159\text{千円}$
- ・補強土壁面材の薄肉化 (18cm → 14cm)  $\Delta 2,634\text{千円}$
- ・根株の吹付材利用  $\Delta 1,715\text{千円}$

6



# 環境面への配慮

盛土法面に現地発生  
表土を利用



根株をチップ化し吹付



法面保護(植生復元)



7

# 住民協働による維持管理

地元住民による桜の植栽



←「乙姫街道桜守会」による垂桜の植栽状況

法面、路肩の草刈り



- ・農道沿線の農地所有者による草刈り
- ・市の緊急雇用対策による草刈り

→



# 事業を巡る社会情勢等の変化

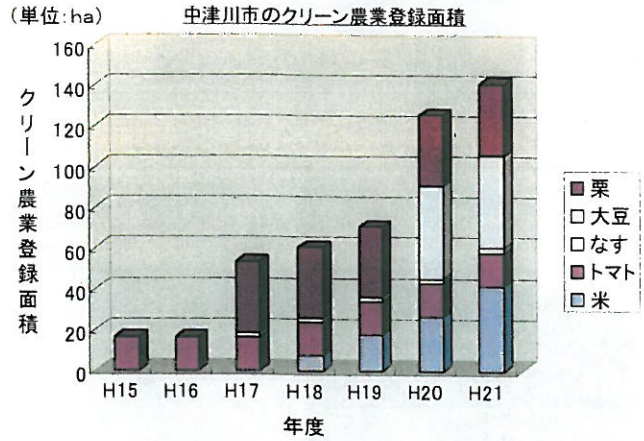
## 中津川市の合併 (H17.2.13)

< 恵那郡6町村と長野県山口村の編入合併 >

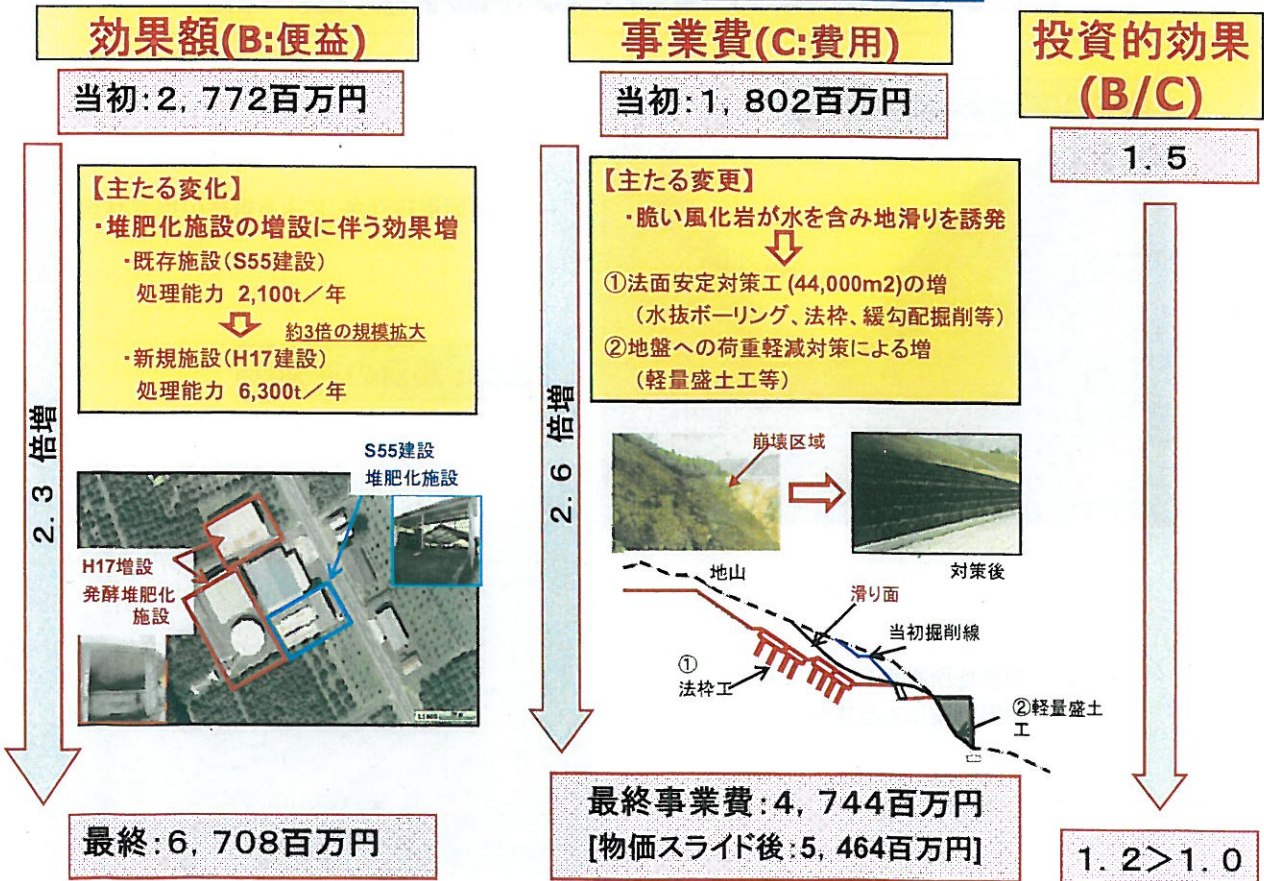


## ぎふクリーン農業の推進

< 米・大豆について年々増加傾向 >



## 効果額と事業費の変化





# 環境面への配慮

盛土法面に現地発生  
表土を利用



法面保護(植生復元)



根株をチップ化し吹付



7

# 住民協働による維持管理

地元住民による桜の植栽



←「乙姫街道桜守会」による垂桜の植栽状況

法面、路肩の草刈り



- ・農道沿線の農地所有者による草刈り
- ・市の緊急雇用対策による草刈り

→



# 事業を巡る社会情勢等の変化

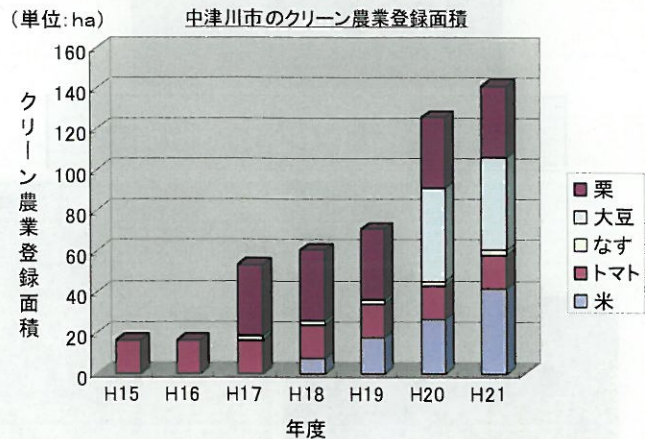
## 中津川市の合併 (H17.2.13)

< 恵那郡6町村と長野県山口村の編入合併 >



## ぎふクリーン農業の推進

< 米・大豆について年々増加傾向 >



## 効果額と事業費の変化

### 効果額(B:便益)

当初: 2,772百万円

#### 【主たる変化】

- ・堆肥化施設の増設に伴う効果増
- ・既存施設 (S55建設)  
処理能力 2,100t/年  
↓ 約3倍の規模拡大
- ・新規施設 (H17建設)  
処理能力 6,300t/年



2.4 倍増

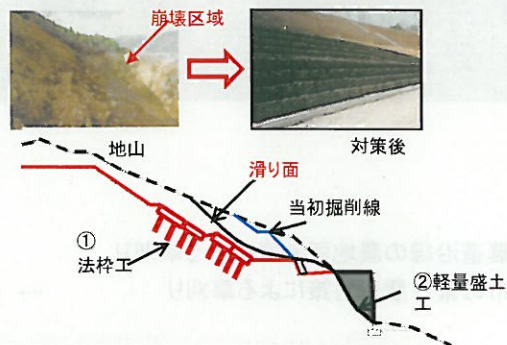
最終: 6,708百万円

### 事業費(C:費用)

当初: 1,802百万円

#### 【主たる変更】

- ・脆い風化岩が水を含み地滑りを誘発
- ↓
- ①法面安定対策工 (44,000m<sup>2</sup>)の増  
(水抜ボーリング、法枠、緩勾配掘削等)
- ②地盤への荷重軽減対策による増  
(軽量盛土工等)



2.6 倍増

最終事業費: 4,744百万円  
[物価スライド後: 5,464百万円]

### 投資的効果 (B/C)

1.5

1.2 > 1.0



# 費用対効果分析

## ■事業の効果

営農に係る走行経費節減効果等	効果全体の <u>48%</u>
一般交通等経費節減効果	効果全体の <u>47%</u>
その他効果	効果全体の <u>5%</u>

## ■投資的效果

$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 1.2$$

11

# 事業の効果1

- 直接的効果
  - ・輸送距離、輸送時間の短縮
  - ・輸送車両の大型化

山口地区の例  
 畜産副産物・堆肥  
 (受益 ↔ 堆肥化施設)  
 6.1km → 2.5km  
 22分 → 4分



- 間接的效果
  - ・生活道路としての利用
  - ・災害時の代替ルート

交通量	
交通量調査結果	1,814台/日
計画交通量	998台/日

12



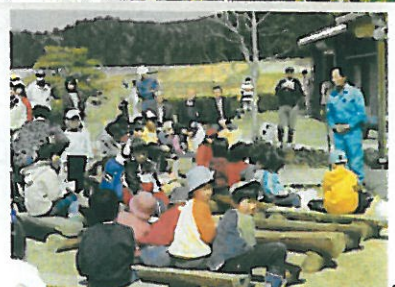
# 事業の効果2

地域資源を活用した都市交流促進

栂の湖自然公園  
(そばの花まつり)



栂の湖農業小学校



13

## 地域の特産物等

くり農園



栂の湖茶



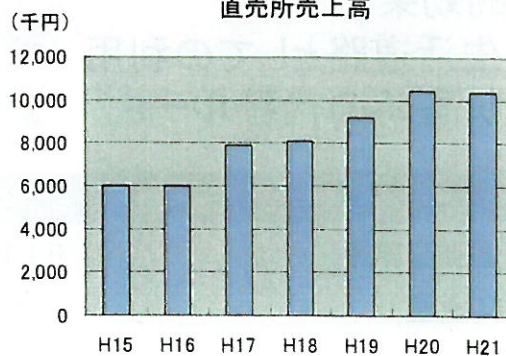
そば畑



直売所



直売所売上高



14



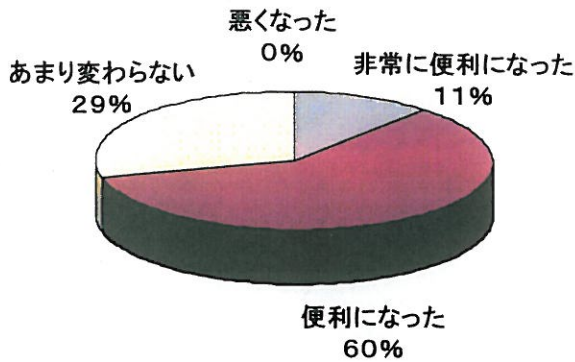
# 受益農家・地域住民への効果

アンケート結果: 受益24集落715戸配布

434戸(内農家139戸)回収 回収率約6割

## 農業への効果

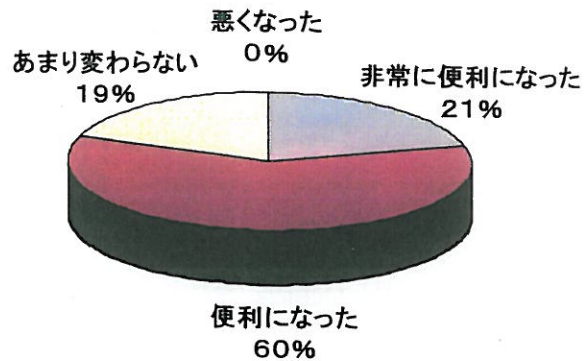
問. 乙姫農道ができたことにより、農畜産業を行ううえで、利便性に変化がありましたか？



約7割の農家が満足

## 日常生活への効果

問. 乙姫農道ができたことにより、通勤・通学や買い物などにおいて、利便性に変化はありましたか？



約8割の地域住民が満足

15

## 対応方針(案)

### 今後の事業評価の必要性

- ・ 農作業、農産物輸送のみならず、農村地域の生活道路としても利用され、住民の満足度も高いため、今後の事業評価は必要としない。

### 改善措置の必要性

- ・ 地元及び中津川市からの改善要望もなく、改善措置の必要性はない。

### 新規事業への留意点

- ・ コスト縮減を考慮しつつ、利用者の利便性・安全性が向上されるように、施設への案内標示や、勾配変化箇所・カーブ手前での警戒標識・視線誘導等の安全施設の設置を十分検討し、安全で円滑に通行できるよう留意する。

16



